

平成16年、2004年の新居浜災害についてです。

台風、集中豪雨災害は、日本では毎年恒例の災害です。昔は北海道、東北では、毎年ではなかったように思いますが、最近は四国と同様に毎年の災害に近くなっているように感じます。台風の北上コースが変化していたり、やたら強力で巨大化したりするのは、地球温暖化が原因ではないかと考えるのは私だけではないと思います。いつ起きるか分からない巨大地震も怖いですが、毎年のように日本のどこかの町が被害を受ける台風、集中豪雨もきちんと対応できるように、防災・減災対策をしなければなりません。

防災・減災対策には、まずは過去の災害を調べることで、学習することだと思いき、平成16年8月、9月、10月の3か月間に5つの台風が襲来して、新居浜市内だけでも合わせて9人の死者が出た平成16年の豪雨災害の新居浜市の災害状況を調べようと、コンピューターで検索をしてみました。新居浜市のホームページでの検索、グーグル検索等、あれこれした結果ですが、見つけたのは新居浜市地域防災計画令和6年度修正版の資料編の中にある災害履歴一覧表と新居浜市ボランティア・市民活動センターが残していました平成16年新居浜災害の記載、あと2005年10月発行の砂防と治水167号に掲載された当時の佐々木市長の寄稿文、平成16年災害の教訓を生かすと社会福祉事業団の災害ボランティア担当者が書いた文章、以上の4点でした。

防災計画の資料編にある災害履歴一覧は、新居浜市の公式文書と言えらるかもしれませんが、いわゆる大きな災害、多くの死者や被害が出た災害の記録、報告書と思えるものはありません。なぜでしょうか。

しかし、私が検索できなかつたのかと思いき、市民環境部危機管理課に調査をお願いしましたら、平成18年9月に愛媛大学防災情報研究センターが新居浜市で開催した同センターの設立記念の第1回地域防災講演会の講演録が出てきました。平成16年台風災害の教訓と防災まちづくりです。講演録の編集後記を読むと、講演会終了後に講演内容のテープ起こしをして、白黒印刷で2,000部作成したうちの1冊が危機管理課の書棚にあったということで見せていただきました。

しかし、これはインターネットで探せるウェブ上にはありません。2,000部作成して配布したとのことですが、約20年前の講演会の講演録です。今の市民が探して探せるものではないと思いました。

現在、市民が通常インターネット検索で探せて読める新居浜市の公式な災害記録は、地域防災計画令和6年度修正版の資料編の中にある災害履歴一覧表になります。災害履歴一覧に記載された一番古い時期の災害は、明治32年、1899年の旧別子の山津波による大災害、それと関連した国領川の氾濫による災害です。

一番新しい災害の記載が令和5年8月の台風6号の記載です。この2つの災害の間、明治32年から令和5年までの125年間、新居浜市で死者が出た自然災害は、明治32年と平成8年、1996年の台風12号、そして平成16年に5つの台風が襲来して、新居浜市内で9人もの死者が出た豪雨災害の3年3回だけです。

なぜ、公式の報告書なり調査レポートがきちっとないのか。記憶を記

録として継承することは行政の重要な責務だと私は考えます。

古川市長は、この事例について、どのようにお考えになりますか、御所見をお伺いいたします。

○市民環境部危機管理監（小澤昇）

（登壇）平成16年災害についてお答えいたします。

まず、災害の記録の風化と被害状況についてでございます。

本市で発生しました平成16年の豪雨など、3つの大きな災害について、公式な報告書や調査レポートが残されていないことにつきましては、危機管理課の前身である防災安全課が新設されたのは平成18年であり、それまでは危機管理に特化した専門の部署がございませんでした。

このため、平時は危機管理所掌でない部署が災害情報の整理、記録及び収集並びに情報収集活動全般の総括に関することを担っておりましたため、未曾有の出来事に対し、通常業務及び災害対応の収束に向けた業務に注力する中で、災害の記録を報告書などにまとめるところまで意識が及ばなかったこと及び災害情報を保存する部署が明確でなかったことから、今日に至ってしまったものと思われまます。

また、現在残されております資料が公表されていないことにつきましては、実際に市内で発生した過去の災害を知ることが、災害を自らのことと捉えて減災に取り組むことに大いに有効であると考えますことから、ホームページ上に掲載するなど、啓発に努めてまいります。

次に、記憶の継承についてでございます。

災害を過去の災害とするだけでなく、当時の取り組んだ活動状況や教訓などを記録として後世へ伝えていく重要性は強く認識しております。このため、平成16年災害から20年の節目となった昨年には、平成16年災害から20年の記録～記憶を伝え未来へつなぐ～と題したロビー展を消防防災合同庁舎1階において開催したところでございます。ロビー展では、当時の災害の写真や資料をパネルで紹介するとともに、当時、災害対応をした職員からの声を集め、対応業務に関する情報や当時の感想を市民の皆様にご紹介させていただきました。

大條議員さんから御指摘いただきました過去の事例につきましては、市民の安心・安全行政をつかさどる市として真摯に捉え、今後におきましては、災害発生時には災害状況や各種資料の収集、保存、次に備えた教訓の導出、計画等への反映を確実にを行うとともに、様々な機会を通じて、過去の資料の収集、保存に努め、記録として市民の皆様にご公開し、記憶を風化させることなく、後世に伝承し、将来の災害に備えてまいります。

○議長（田窪秀道） 大條雅久議員。

○23番（大條雅久）（登壇）災害の記憶を記録として継承を引き続きよろしく願いいたします。

先ほどお聞きしたロビー展の記録なども、せっかく集めた写真ですので、市民がいつでも見られるような形で掲載をしていくことをお願いして、次の質問に移ります。